

十和田の火山活動解説資料（令和2年7月）

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1）

銀山監視カメラによる観測では、噴気や湖面の異常等は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図2、図3）

17日に中山半島を震源とする地震が発生し、地震の最大規模はマグニチュード2.9でした。観測開始以降確認している深さ5km前後で発生している地震は、今期間は少ない状態で経過しました。より浅い場所を震源とする火山性地震、火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図4、図6）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

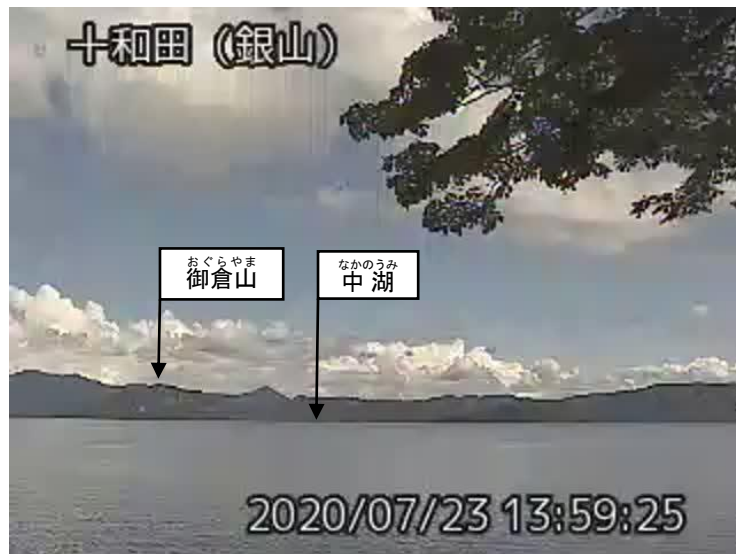


図1 十和田 中湖周辺の状況（7月23日）

・銀山監視カメラ（中湖の北西約6km）の映像です。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（令和2年8月分）は令和2年9月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、北海道大学、弘前大学、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、青森県のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

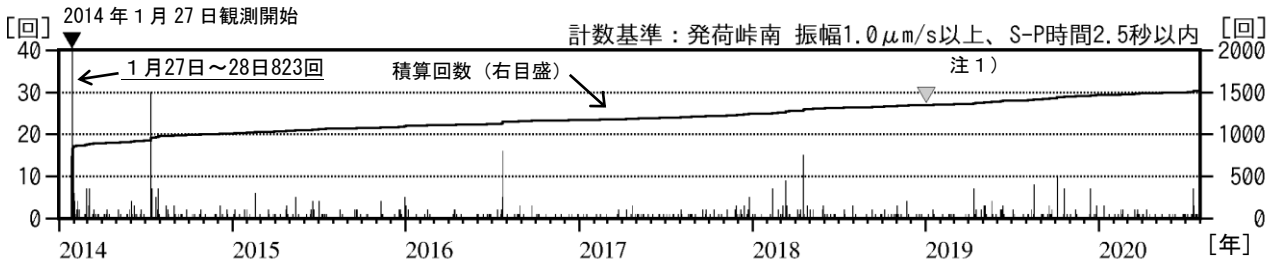
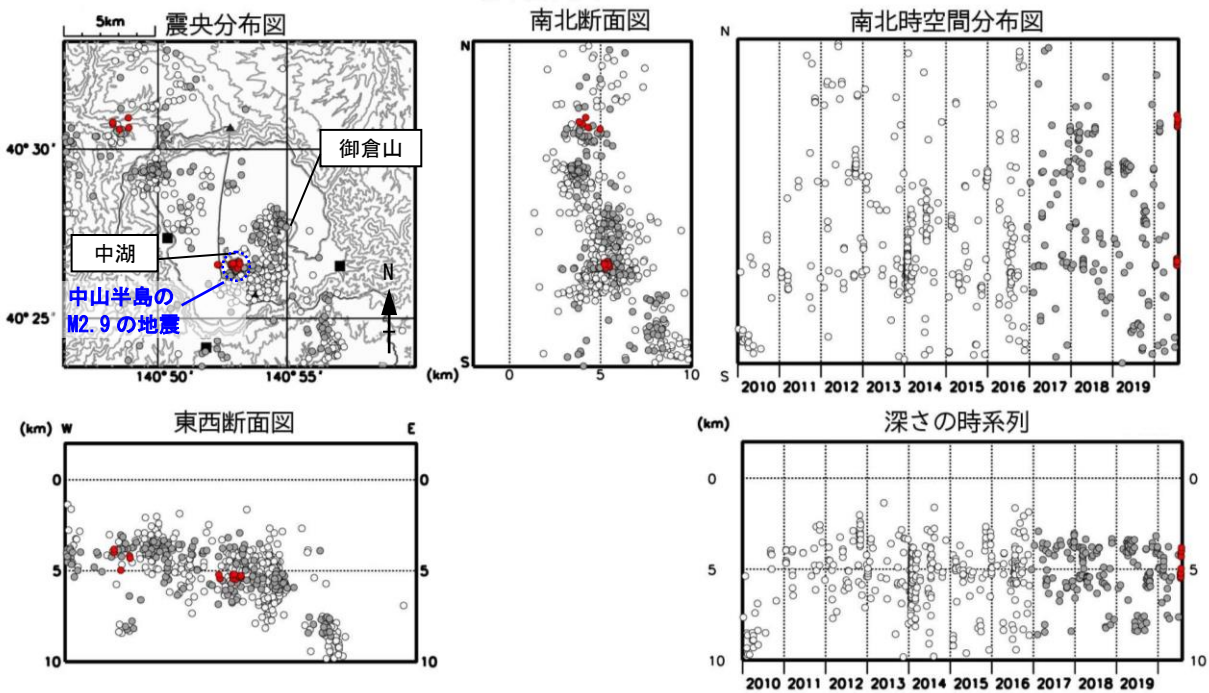


図2 十和田 日別地震回数（2014年1月～2020年7月）

・計数基準の変遷は次のとおりです。

観測開始 2014年1月27日～ 防災科学技術研究所小坂観測点 振幅 $1.0\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間2秒以内
 注1) 2019年1月1日～ 発荷峠南観測点 振幅 $1.0\mu\text{m/s}$ 以上、S-P時間2.5秒以内



● : 2020年7月1日～7月31日 ● : 2016年12月1日～2020年6月30日
 ○ : 2010年1月1日～2016年11月30日（広域地震観測網、M：-1.0以上） ■ : 地震観測点位置

図3 十和田 地震活動（2010年1月～2020年7月）

- ・中山半島（青破線）で地震が発生し、地震の最大規模はマグニチュード2.9でした。
- ・深さ5km前後の地震は、少ない状態で経過しました。
- ・震源決定には図5右の地震観測点も使用しています。

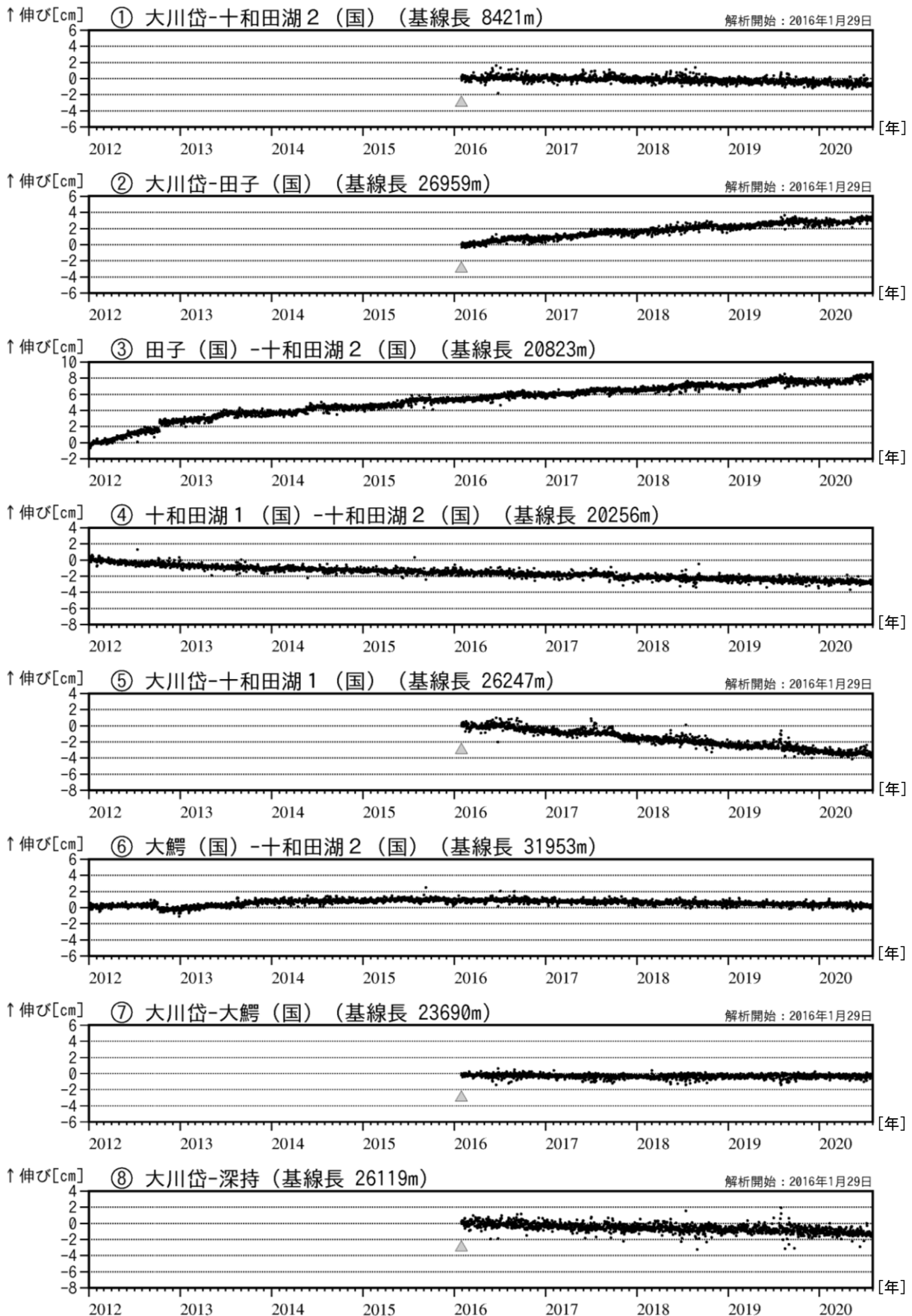


図4 十和田 GNSS 基線長変化図 (2012年1月~2020年7月)

- ・①~⑧は図6のGNSS基線①~⑧に対応しています。
- ・(国)は国土地理院の観測点を示します。
- ▲: 解析開始を示します。

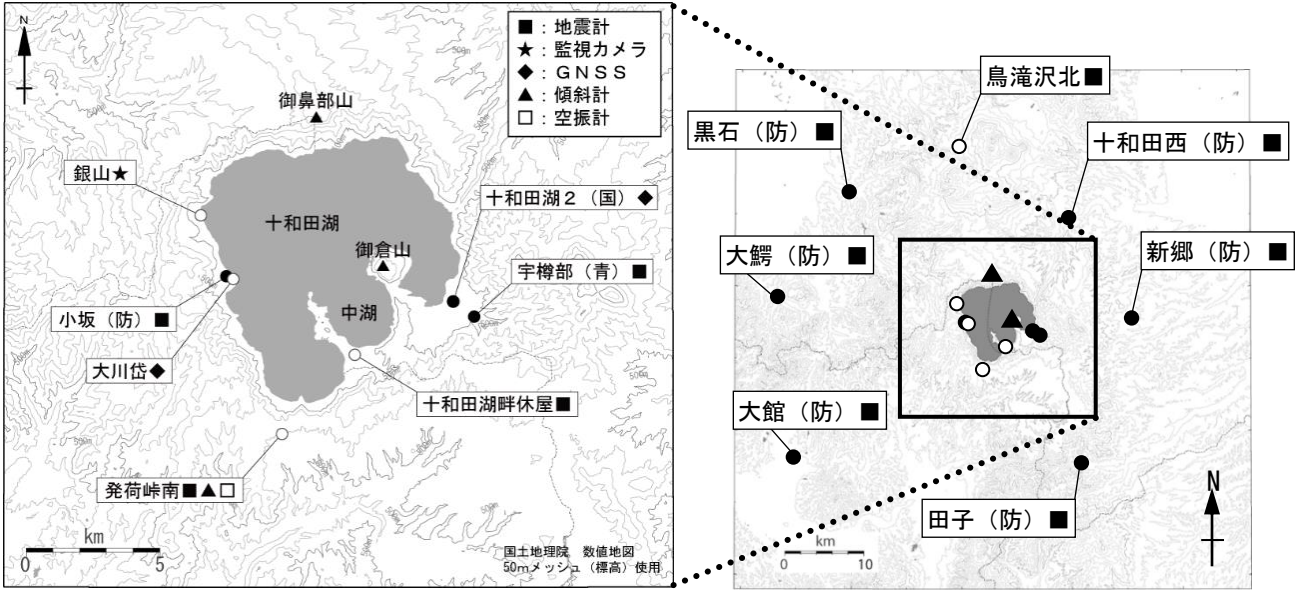


図5 十和田 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 （国）：国土地理院 （防）：防災科学技術研究所 （青）：青森県

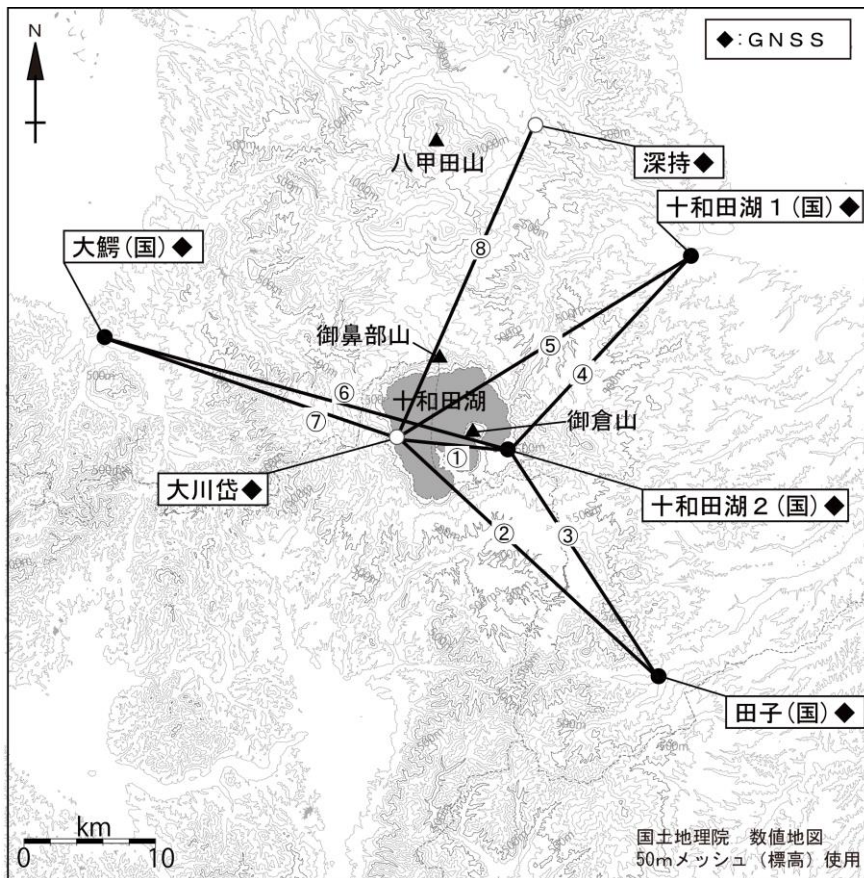


図6 十和田 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 （国）：国土地理院